FUJIFILM

ODAWARA

KANAGAWA FACTORY

Sustainability Report

2013

ASHIGARA

富士フイルム 神奈川工場
サステナビリティレポート

ごあいさつ

はじめに

2013年度 富士フイルム神奈川工場は写真フィルム創業の地として80年目を迎えます。80年という節目の年を迎えられるのも、私共の製品をご利用いただいているお客様をはじめ、この神奈川工場での生産活動へのご理解、ご協力をいただいている地域の皆様、そして献身的な従業員の努力があってのことと、改めてステークホルダーの皆様へお礼申し上げます。

生産活動・課題

2005 年社名から ″ 写真 ″ の文字をなくし「富士フイルム株式会社」と変更したときとほぼ同時に小田原工場と足柄工場を統合し神奈川工場としました。現在の生産品は液晶ディスプレー用偏光板、保護フィルム「フジタック」などのフラットパネル用材料を中心に、写真感光材料、記録メディア製品、さらに新規機能性材料など幅広い分野の製品を生産する工場に変化しています。特に足柄サイトでは、操業以来生産している写真フィルムはデジタル化への転換により、年々生産量が減少しておりますが、それに代わる新製品として「エクスクリア（導電フィルム）」などの高機能性材料をいくつか上市しています。これらを成長軌道に乗せることが経営の最大の課題となっています。

環境保全活動トピックス

このように神奈川工場での生産品も時代の要請で大きく変化してきましたが、「地球・人類・企業の持続可能な発展を目指し、企業体質・製品・サービスにおける高い環境品質を実現して、顧客満足を達成する」ことを趣旨とする「富士フイルムグループ グリーンポリシー」を継続することには変わりありません。

これらのポリシーを実現する新たなしくみとして、神奈川工場では、2009 年より「安全」「環境」「品質」の３つのマネジメントシステムを統合して運用する統合マネジメントシステム（IMS）を導入しました。統合運用することで、経営環境の変化に対応した重点施策を一丸となって推進する『リスクマネジメント機能』の強化を図るものです。

2012年の振り返り

東日本大震災から２年が過ぎた現在、社会全体で抱える大きな課題の一つはエネルギー問題です。
1997年京都議定書により、日本は2012年までに温室効果ガス6種の合計排出量を対1990年比6%削減が定められました。これを受け富士フイルムでは地球温暖化対策としてCO_2排出量削減に取り組み、全社トータルで2012年度に対1990年比 CO_2排出原単位40%の削減目標を実現させました。神奈川工場としては1990年比CO_2排出絶対量を約43%削減する省エネ活動を実現し目標達成に大きく貢献しました。

一方で東日本大震災後、新たなエネルギー問題としてエネルギー資源の転換に伴うエネルギーコスト上昇は激しく、コストアップの大きな要因の一つとなっています。これらに迅速に対応するために2013年5月、新たに全社エネルギー戦略推進委員会を発足し、さらなる改善活動をスタートさせました。2013年以降もエネルギー量削減は継続していく重要課題となります。

今後の課題

このように大きく変化する社会環境・経営環境に迅速に対応し、継続的な発展を遂げるには、従来のやり方を常に見直し、改善していくサイクルを回す必要があります。このサステナビリティレポートも、より新しい取り組みをタイムリーにお伝えする内容に一新しました。地域の皆様をはじめ、社外の皆様と今後も双方向のコミュニケーションを図りながら、更なる改善に繋げたいと考えています。皆様からのご指摘、ご意見、ご指導を賜れば幸いと存じます。

2013 年 9 月

富士フイルム株式会社
執行役員　神奈川工場長
堀江秀明

目次

ごあいさつ…… 1
神奈川工場の概要・環境負荷…… 2
神奈川事業場方針…… 3
2012～2013 活動のTopics …… 4
環境保全・労働安全衛生
《特集》導電フィルム「エクスクリア」…… 5･6
環境保全活動　大気・廃棄物の管理…… 7
水質・PRTR調査結果…… 8
省エネ・CO_2排出量の削減…… 9
地域とのコミュニケーション……10

■編集方針

本レポートは富士フイルム株式会社神奈川工場と当工場敷地内にある関連組織およびグループ会社の環境・安全および地域コミュニケーションについての活動と2012年度における実績を中心に掲載しています。

私たちの取り組みを読者の皆様にご理解いただくとともに取り組みの更なる向上を目指し、読者の方々とのコミュニケーションを図ることを目的に毎年発行しています。

本年度の特集はスマートフォンやタブレットPCなどに使われるタッチパネルのセンサー用途に開発を進めている導電フィルム「エクスクリア」をご紹介しています。

読者の皆様には巻末にある連絡先までご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いに存じます。

概　　要

神奈川工場の概要

	小田原サイト	足柄サイト
所在地	〒250-0001 神奈川県小田原市扇町2-12-1	〒250-0193 神奈川県南足柄市中沼210
創立	1938年6月15日	1934年1月20日
生産金額	740 億円	632 億円
敷地面積	110 千㎡	326 千㎡
建物面積	54 千㎡	152 千㎡
延床面積	128 千㎡	443 千㎡
従業員数*	1,391 人	2,434 人
主要製品	・ＷＶフィルム 液晶ディスプレイ用視野角拡大フィルム ・記録メディア コンピューター用バックアップテープ 放送用ビデオテープ　など ・化学薬品 ＷＶフィルム用/写真用/外販用 硝酸銀	・ＴＡＣフィルム 液晶ディスプレイ用偏光板保護フィルム ・写真フィルムと印画紙 一般アマチュアおよびプロフェッショナル写真家用 ・写真感光材料 製版用/医療用/事務用/映画用/産業用 ・体外診断薬および医療機器 ・導電フィルム

*2013年3月現在 サイト内にあるグループ会社の従業員数を含む

神奈川工場マネジメントシステム認証取得年月

	ISO9001	ISO14001	ISO14001 小田原 / 足柄サイト統合	OHSAS18001 ／ 統合マネジメントシステム運用
小田原サイト	1992 年 10 月	1996 年 10 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月
足柄サイト	1992 年　9 月	1996 年 12 月	2006 年 12 月	2009 年 11 月

神奈川工場の環境負荷（2012 年度）

エネルギー・井水

	小田原サイト	足柄サイト
電力-買電	37,417 kWh/年	118,217 kWh/年
電力-自家発電	39,420 kWh/年	92,545 kWh/年
重油	-	605 KL/年
都市ガス	14,122 千Nm³/年	42,544 千Nm³/年
井水・市水	4,025 千m³/年	9,441 千m³/年

主要原材料

	小田原サイト	足柄サイト
ベースフィルム	7,708 t/年	9,788 t/年
銀	247 t/年	166 t/年
鉄	322 t/年	-
ゼラチン	-	687 t/年

原料再生

	小田原サイト	足柄サイト
銀	2.5 t/年	146 t/年
溶剤	1,785 t/年	-
ベースフィルム	-	2,192 t/年

大気排出

	小田原サイト	足柄サイト
ＶＯＣ	51.1 t/年	274.7 t/年
CO_2	48.9 千t/年	141.5 千t/年
ＳＯｘ	-	0.7 t/年
ＮＯｘ	26.8 t/年	28.6 t/年
ばいじん	0.2 t/年	0.5 t/年

リユース

	小田原サイト	足柄サイト
プラスチック	61.6 t/年	9.7 t/年

排水量

	小田原サイト	足柄サイト
公共河川	5,101 千m³/年	9,099 千m³/年
下水道	229 千m³/年	1,432 千m³/年

廃棄物量

	小田原サイト	足柄サイト
リサイクル	2,586 t/年	3,801 t/年
直接埋立+単純焼却	1.4 t/年	5.8 t/年

製 品

概　　要

平成25年度　「神」事業場方針とスローガン

FUJIFILM
平成 25 年度 神事業場方針

「売れる品質」、「儲かるコスト」に強くこだわり
勇気を持って、外に跳び出そう！

IMS（安全・環境・品質）スローガン
プロとして　意識、感度、行動力 をあげ
強い現場を作る！
～ 全員参加の 5S を推進しよう! ～

平成25年度　神事業場方針

神事業場では、創業以来生産し続けている写真フィルムに代わる新製品を成長軌道に乗せ、富士フイルムの大きな収益源としていくことが経営の最大の課題となっています。

それらを実現するには、お客様のニーズを的確に掴み、高品質な製品を低コストでタイムリーにお届けする必要があります。それを今年度の方針に掲げました。

スローガン

事業場方針を実現する源泉は個人と組織の現場力です。一人ひとりがプロ意識を高め行動することをスローガンにしました。

「神」事業場方針実現のしくみとして運用する「統合マネジメントシステム（神ＩＭＳ）」

統合マネジメントシステムの運用

神奈川事業場では、ISO9002（1992～）、ISO14001（1996 ～）、OHSAS18001（2009 ～）を認証取得し、2009年以降これら３つのマネジメントシステムを統合マネジメントシステム（IMS）として運用しています。（IMS：Integrated　Management　System）

統合マネジメントシステム運用の狙い

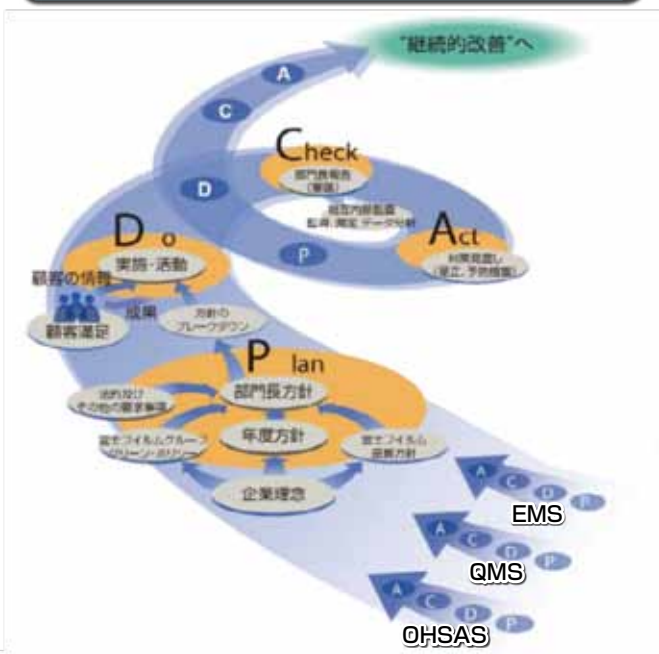
統合マネジメントシステムでは、事業場内の関係会社を含む全部門で統一した事業場方針とスローガンを定め、一丸となって業務改善に取り組みます。

統合運用することで、より経営指針と一体となった事業基盤の強化につなげるとともにシンプルで効率的な改善のしくみを実現しています。

統合マネジメントシステムの運用体制

神奈川事業場では方針や重点課題を策定し IMS 活動全体を統括する IMS 委員会と「安全」「環境」「品質」のそれぞれの軸で改善活動を推進する専門委員会を設け、それらが連携して重点課題を推進しています。

経営と一体となった改善活動



神 IMS　運用体制

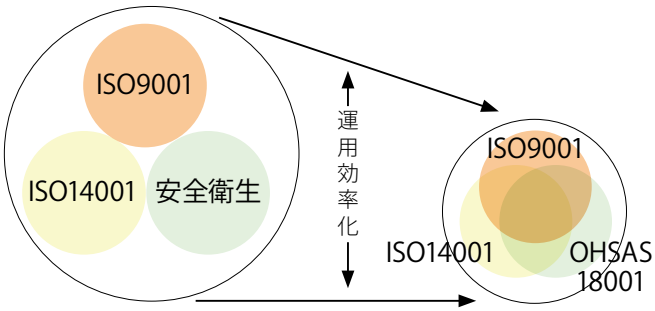
神IMS委員会
・神IMSの最高決議機関
方針、充填課題の決定、マネジメントレビュー

IMS専門委員会
・IMS安全委員会
・IMS環境委員会
・IMS品質委員会

・３専門委員会を設置
重点課題を３つのMSの観点で課題展開する機関

IMS各部委員
・事務局からの連絡窓口
各部門IMSデータベース管理者

IMS による運用の効率化



2012 ～ 2013　活動の Topics

環境保全

改正水質汚濁防止法への対応

地下水の汚染防止を目的として水質汚濁防止法が改正され、2012年6月から施行されました。

この改正では、水質汚濁防止法で定める有害物質を貯蔵する施設を新たに指定施設として届出対象とし、地下水汚染防止のための構造基準遵守及び点検義務を課しています。

神奈川工場においては足柄サイトで56施設、小田原サイトで13施設が該当し、指定施設として届出を行いました。本改正以前からこれらの設備については液漏れチェック等の点検を行うとともに、年に一回、工場周辺の地下水の水質チェックを行っています。（8ページ参照）

今後も法律を遵守し地下水汚染防止のための点検、監視を継続していきます。

車両からのオイル類漏洩防止キャンペーン

当工場では、工事作業や車両からのオイル類漏洩防止について、環境保全の重要項目と捉え活動を行っています。環境月間の６月第１週には、昨年に引き続き入場車両に対するビラ配布のキャンペーンを行い、オイル類漏洩に対する注意を喚起しました。

労働安全衛生

怖さを知る（危険体感研修）による個人の安全意識向上

従来、新人や施工会社従業員の安全意識向上のために運用してきた感電・挟まれ・落下などの危険体感研修を全従業員に広げ、より多くの人に災害の怖さを知らせるようにしました。年間約300名の受講計画を立て、従業員の危険に対する感度向上に繋げていきます。

また神事業場は多くの化学物質を取り扱っています。このため保護具の大切さ、取扱う際の安全感度向上を体感してもらうため、2013年4月より化学物質飛散の体感を追加しました。

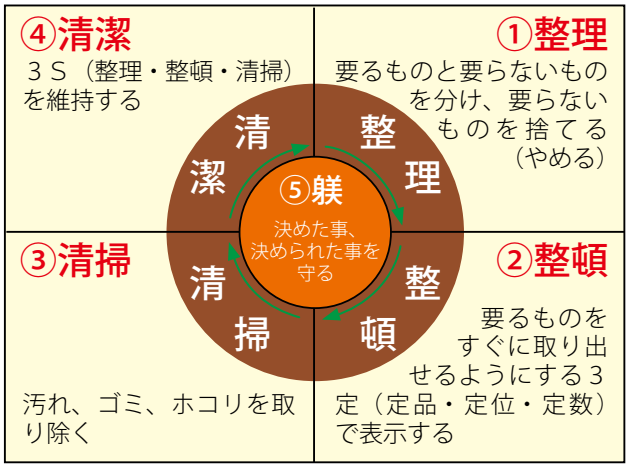
今後も身近な作業での危険体感を実感してもらうよう体感内容の充実を図っていきます。

全員参加の５Ｓ活動展開による組織力向上

「５Ｓは安全の基本」の理念により改めて〝５Ｓ〟とは何かを見直し、５Ｓの定義（右図）を理解し以下を活動の基本方針として、推進しています。

- 全員参加とする
- 職場単位で目標を決めて活動する
- 整理からはじめるサイクルを廻し、躾に繋げる

特に 2013 年度は現場のリーダーや管理者を巻込み、これにより今までと違う〝徹底的に〟そして〝継続的な〟「５Ｓ活動」を実施していきます。

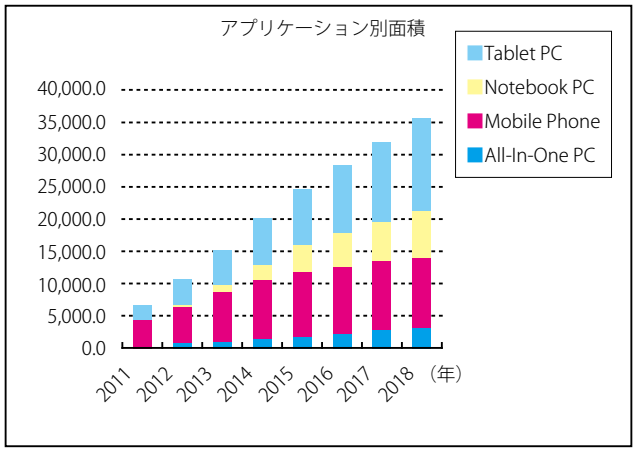


タッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」の開発・商品化

現在、急速に市場拡大しているスマートフォンやタブレットPCなどに使われるタッチパネルのセンサー用途に開発した、新しい導電フィルム「エクスクリア」を2012年11月から本格的に出荷を開始しました。
「エクスクリア」は銀塩写真技術を応用することにより高い透明性と屈曲性、広範囲な抵抗値を実現した今までにない全く新しい導電フィルムです。

1．市場規模と要求性能

タッチパネルは、急速に普及しているスマートフォンやタブレットだけでなく、近年ノートPC、オールインワンPCなどにも搭載されています。そして今後タッチパネル市場は、年率10%以上で成長すると予測されています。タッチパネル用センサーに使われている部材は、フィルムやガラスにレアメタルの酸化インジウムスズ（ITO）を薄膜形成させた透明導電膜が一般的に利用されていますが、今後の需要拡大にあたっては次のような課題がありました。



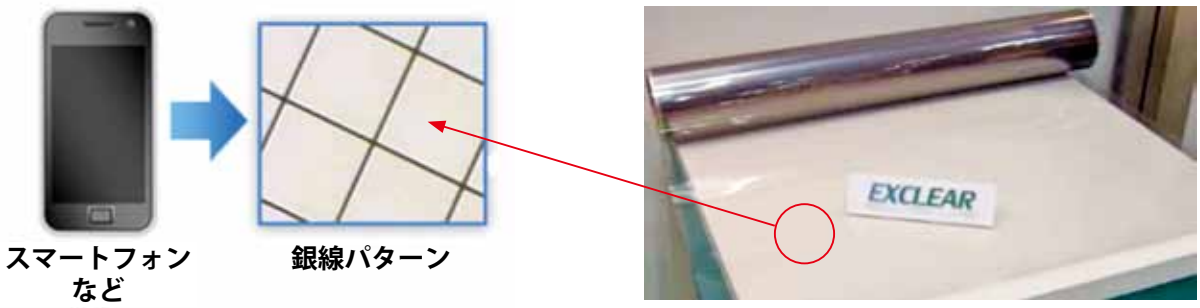
出典：ディスプレイサーチ（2012 年 12 月）

a）屈曲させると割れやすい
b）フィルムタイプの場合は、抵抗が高く大型サイズの画面では応答性が遅くなる
c）一方、抵抗を下げると膜厚が厚くなり透過性が低下する
d）ガラスタイプの場合は、抵抗値は低いが、フィルムタイプに比べ重く厚い

エクスクリアはこれらの課題を改善することができるタッチパネル用センサーフィルムとして、スマートフォンやタブレットの小型サイズのみならず、ノートPCやオールインワンPCの中・大型サイズのタッチパネル画面でも優れた応答性能を発揮します。

2．エクスクリアの特長を支える技術

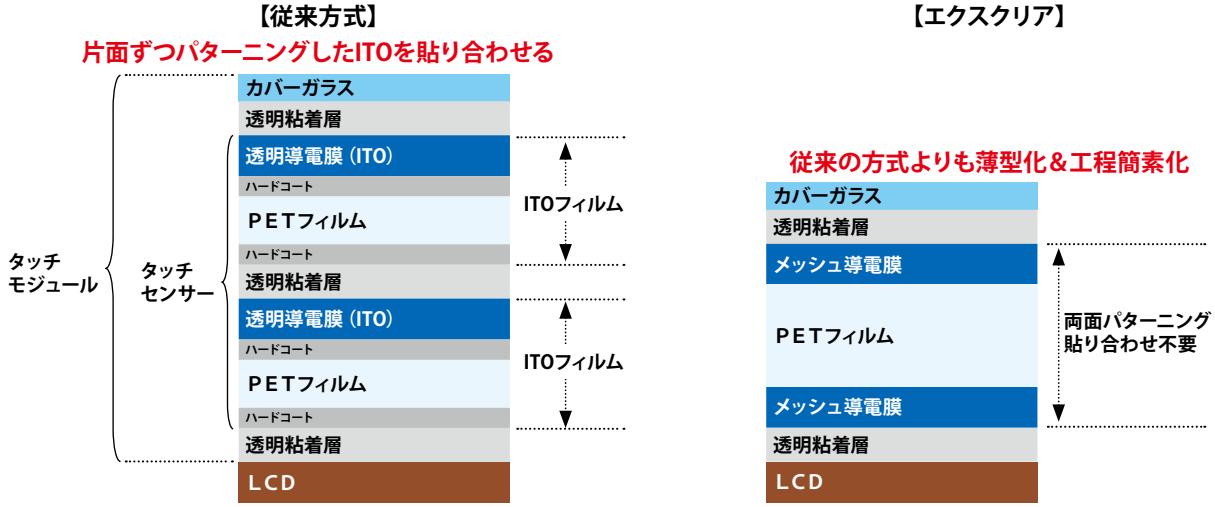
富士フイルムには、写真フィルムや薄型テレビ用フラットパネル材料で培った機能性材料研究や精密薄層塗布技術、画像設計技術などがあり、これらをタッチパネル用センサーフィルムに応用しています。写真技術を応用して、透明なPET（ポリエチレンテレフタレート）フィルム上に様々な太さや密度の目に見えない細い銀線を自在にパターニングし、市場ニーズに合った、低抵抗で透明性・屈曲性が高いタッチパネル用センサーフィルムの開発を実現しました。



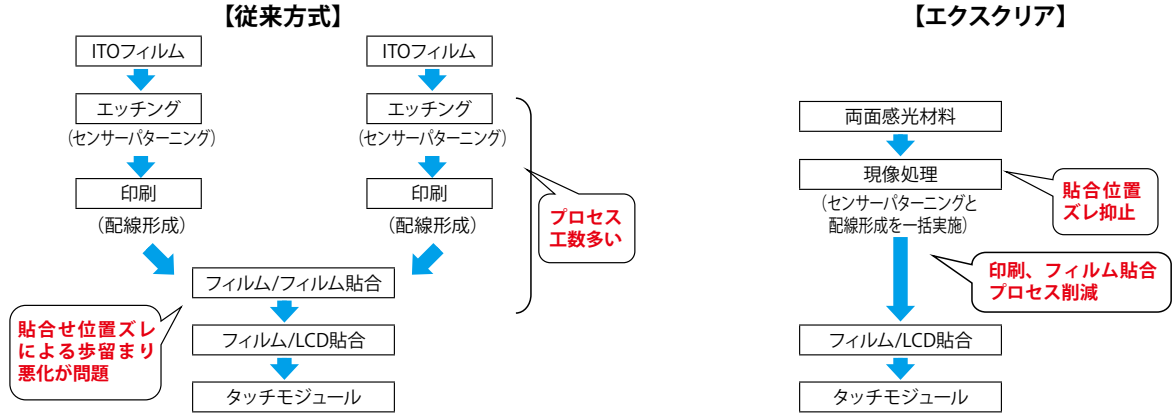
また、従来のタッチパネル用センサー部材の製造ではパターニングしたITO導電膜を２枚貼り合わせるため位置ズレによる歩留まりの悪化が生じていましたが、エクスクリアでは支持体の両面に位置精度良くパターニングでき、得率向上とコストダウンが可能になりました。

静電容量方式（フィルム）

従来（ITO）とエクスクリアの構造比較



従来(ITO)とエクスクリアのプロセス比較



３．環境への配慮

従来導電膜（ITO）に使用されているインジウムはレアメタルであり枯渇が危惧され代替が求められていますが、エクスクリアはこれを使用しません。またエクスクリアの製造は写真処理を応用したプロセスから成り、工場内の銀回収システムにより、材料の銀をムダなく使用できます。

４．今後

2012年11月から本格的な出荷を開始し、販売拡大に向け、2013年には神奈川工場にパターニング機器、検査装置などの最新鋭設備を導入しました。生産能力を２倍以上に引き上げ、今後急速な普及が見込まれるタッチパネルの需要増に応えていきます。

▶開発を担う神イメージング材料生産部・先端コア技術研究所と製造を担う富士フイルムフォトマニュファクチャリング㈱及び事務部、産業機材事業部のメンバー

環境保全活動

神奈川工場では法遵守のため、大気、水質に関して法規制値より厳しい基準値を設け、徹底した自己管理を行っています。また環境への負荷を低減するために、揮発性有機化合物（VOC）の大気排出量や廃棄物発生量の削減に努めています。

大気（ばい煙・VOC）

		項目	対象設備	単位	県条例排出基準	工場管理値	2010 年度	2011 年度	2012 年度
小田原サイト	総量規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	2.49	2.49	1.32	0.57	0.47
	濃度規制	ＮＯｘ（窒素酸化物）	ガスタービン	ppm	20	20	12	14	15
			１Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	28	29	31
			３Ｆ貫流ボイラー	ppm	60	60	休止中	休止中	休止中
足柄サイト	総量規制	ばいじん		kg / h	13.63（総量）	13.00（総量）	0.54	0.12	0.00006*2
		ＮＯｘ（窒素酸化物）		Nm³/h	23.48（総量）	21.20（総量）	6.60 最大	5.00	3.20
		ＳＯｘ（硫黄酸化物）		Nm³/h	35.7 (5B)	35.7 (5B)	6.2 最大	3.1	―
	濃度規制	ばいじん	５号ボイラー	mg / Nm³	50	45	6	2	―
			７号ボイラー	mg / Nm³	50	50	1 未満	1 未満	1 未満
		ＮＯｘ（窒素酸化物）	５号ボイラー	ppm	110	107	64	61	―
			７号ボイラー	ppm	50	50	36	35	31

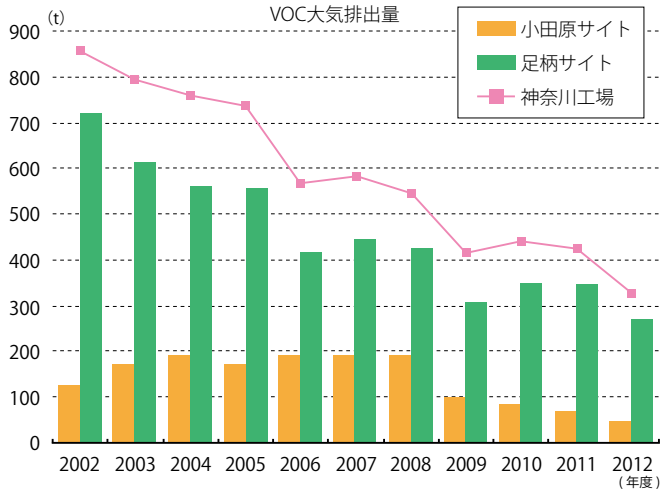
* 総量規制の数値は最高値、濃度規制の数値は平均値です
*2．2011 年 12 月に重油ボイラー（５号ボイラー）を廃止しばいじんが激減しました。

VOC 排出濃度規制への対応

小田原サイト 21 施設、足柄サイト 7 施設の排出口での濃度測定を行い、規制値以下であることを確認しました。

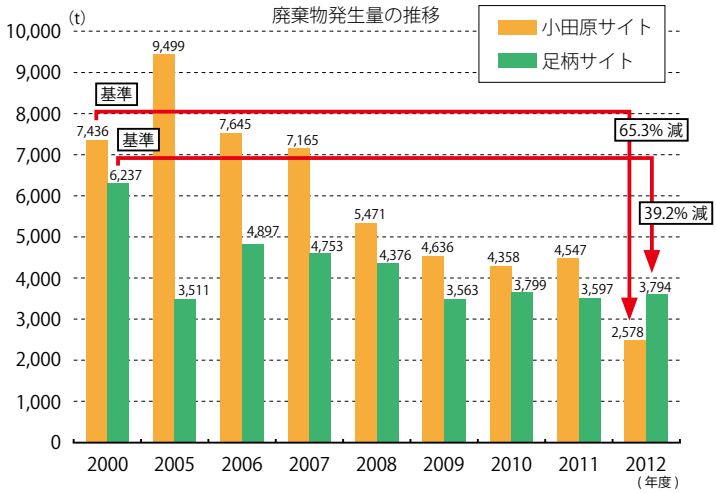
揮発性有機溶剤（VOC）大気排出量の削減

足柄サイトでは酢酸エチルや、メタノール等計8物質、小田原サイトではメチルエチルケトン、プロピルアルコール等、計12物質をＶＯＣ管理対象物質として排出量の管理をしています。これらの物質の大気排出量を削減するために代替溶剤への転換、蓄熱燃焼装置、活性炭吸着装置の導入、工程の徹底した気密化などを実施し、その効果をあげています。



廃棄物の管理

神奈川工場では廃棄物の発生量削減に取り組んでいます。その結果、2012年度は小田原サイトで対2000年度比65.3%、足サイトで39.2%削減することができました。今後、新商品開発・発売により廃棄物の増加が予想されますが、廃棄物の有価物化を積極的に推進し更なる削減を進めます。



水質

河川放流系

主な項目		法規制値	小田原サイト 県条例値	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2011 年度	小田原サイト 2012 年度	足柄サイト 県条例値	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2011 年度	足柄サイト 2012 年度
水素イオン濃度 (p H)	-	5.8 ～ 8.6	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	7.8	7.9	5.8 ～ 8.6	5.9 ～ 8.5	8.0	7.8
生物化学的酸素要求量 (BOD　*1)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	1.3	1 未満
化学的酸素要求量 (COD　*2)	mg/L	160	60	50	1 未満	1 未満	25	20	1.0	1 未満
浮遊物質量 (SS)	mg/L	200	90	75	1 未満	1 未満	70	50	5 未満	5 未満
大腸菌郡数	個 /cm3	3000	3000	300	10 以下	10 以下	3000	300	1 以下	1 以下
ヘルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	mg/L	5	5	4	1 未満	1 未満	5	5	0.5 未満	0.5 未満
銅含有量	mg/L	3	3	1	0.05 未満	0.05 未満	—	—	—	—
亜鉛含有量	mg/L	5	3	1	0.02 未満	0.02 未満	1	0.3	0.1 未満	0.1 未満
溶解性鉄含有量	mg/L	10	10	5	0.05 未満	0.05	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	1	0.5	0.02 未満	0.02 未満	—	—	—	—
クロム含有量	mg/L	2	2	1	0.05 未満	0.05 未満	1	0.5	0.1 未満	0.1 未満
六価クロム化合物	mg/L	0.5	0.5	0.2	0.05 未満	0.05 未満	—	—	—	—
ジクロロメタン	mg/L	0.2	0.2	0.1	0.002 未満	0.002 未満	0.2	0.16	0.02 未満	0.02 未満
シアン	mg/L	1	1	0.8	0.05 未満	0.05 未満	0.5	0.3	0.05 未満	0.05 未満
ニッケル含有量	mg/L	—	1	0.5	0.05 未満	0.05 未満	—	—	—	—
フェノール類	mg/L	5	—	—	—	—	0.05	0.03	0.01 未満	0.01 未満
ふっ素	mg/L	8	—	—	—	—	8	6	0.2 未満	0.2 未満
カドミウム	mg/L	0.1	—	—	—	—	0.05	0.01	0.01 未満	0.01 未満
鉛	mg/L	0.1	—	—	—	—	0.1	0.06	0.01 未満	0.01 未満
セレン	mg/L	0.1	—	—	—	—	0.1	0.08	0.01 未満	0.01 未満

* 1 . BOD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が微生物によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。
* 2 . COD とは水中の汚れ（主に有機性汚濁物質）が酸化剤によって酸化されるときに消費される酸素の量を指します。

測定値は毎年度 10 月度における数値を示しました。

地下水水質

工場内外に、小田原サイトでは10ヶ所・足柄サイトでは16ヶ所、観測井を設置し定期的にモニタリングしています。

主な項目　（単位：mg/L）	法定浄化基準および県条例基準	小田原サイト 工場管理値	小田原サイト 2011 年度（測定 10 箇所）	小田原サイト 2012 年度（測定 10 箇所）	足柄サイト 工場管理値	足柄サイト 2011 年度（測定 16 箇所）	足柄サイト 2012 年度（測定 16 箇所）
カドミウム	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.005	0.005 未満	0.005 未満
全シアン	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.005 未満）	検出されず（0.005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.1 未満）	検出されず（0.1 未満）
鉛	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム	0.05	0.05	0.01 未満	0.01 未満	0.01	0.01 未満	0.01 未満
砒素	0.01	0.01	0.001 未満	0.001 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
総水銀	0.0005	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005	0.0005 未満	0.0005 未満
アルキル水銀	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
PCB	検出されないこと	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）	検出されないこと	検出されず（0.0005 未満）	検出されず（0.0005 未満）
ジクロロメタン	0.02	0.02	0.0004	0.0002 未満	0.015	0.0005 未満	0.0005 未満
四塩化炭素	0.002	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満	0.002	0.0002 未満	0.0002 未満
1,1,1,- トリクロロエタン	1	—	—	—	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
トリクロロエチレン	0.03	0.03	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
テトラクロロエチレン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.001	0.0005 未満	0.0005 未満
ベンゼン	0.01	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満	0.01	0.0002 未満	0.0002 未満
セレン	0.01	0.01	0.005 未満	0.005 未満	0.01	0.005 未満	0.005 未満
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素	10	10	2	4.4	10	2.7	2.2
ふっ素	0.8	0.8	0.1 未満	0.1 未満	0.8	0.2 未満	0.2 未満
ほう酸	1	1	0.1 未満	0.1 未満	1	0.1 未満	0.1 未満

「○○未満」とは検出限界未満を表します。

PRTR 調査結果

PRTR 対象物質・自主管理化学物質データ（2012 年度）

単位：ｔ / 年

	対象物質名	政令指定番号	排出量 大気	排出量 前年との差異	排出量 水域	排出量 土壌	移動量
小田原サイト	アセトニトリル	13	0.1	-0.3	0.0	0.0	4.4
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	コバルト及びその化合物	132	0.0		0.0	0.0	0.5
	ジクロロメタン	186	2.8	-1.1	0.0	0.0	0.0
	N，N－ジメチルアセトアミド	213	0.2	-0.2	0.0	0.0	25.4
	N,N- ジメチルホルムアミド	232	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5
	トルエン	300	0.9	-3.0	0.0	0.0	105.5
	ヒドラジン	333	0.0		0.0	0.0	0.0
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.0
	n- ヘキサン	392	1.8	0.1	0.0	0.0	30.6
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	17.6
足柄サイト	アセトニトリル	13	0.2	0.1	0.0	0.0	1.5
	アンチモン及びその化合物	31	0.0		0.0	0.0	0.1
	銀及びその水溶性化合物	82	0.0		0.0	0.0	0.0
	パラークロロフェノール	121	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2
	クロロホルム	127	0.2	0.1	0.0	0.0	1.0
	ジクロロメタン	186	91.5	-9.4	0.0	0.0	34.8
	セレン及びその化合物	242	0.0		0.0	0.0	0.2
	トルエン	300	0.1	-0.1	0.0	0.0	4.8
	砒素及びその無機化合物	332	0.0		0.0	0.0	0.1
	ヒドロキノン	336	0.0		0.0	0.0	0.1
	n- ヘキサン	392	0.9	0.0	0.0	0.0	4.5
	メチルナフタレン	438	0.4	-0.4	0.0	0.0	0.0
	りん酸トリトリル	460	0.0		0.0	0.0	0.0
	りん酸トリフェニル	461	0.0		0.0	0.0	25.8

* PRTR とは環境汚染物質排出移動登録（Pollutant Release and Transfer Register）の略で、化学物質を製造・使用する事業者が自主的に環境への排出量を把握・管理する仕組みのことです。

省エネルギー・CO_2排出量の削減

日本は京都議定書に基づいて、CO_2等の温室効果ガス6種の合計排出量を基準年である1990年比で6%削減することを目標に地球温暖化対策を推進し、2012年度がその最終年度でした。

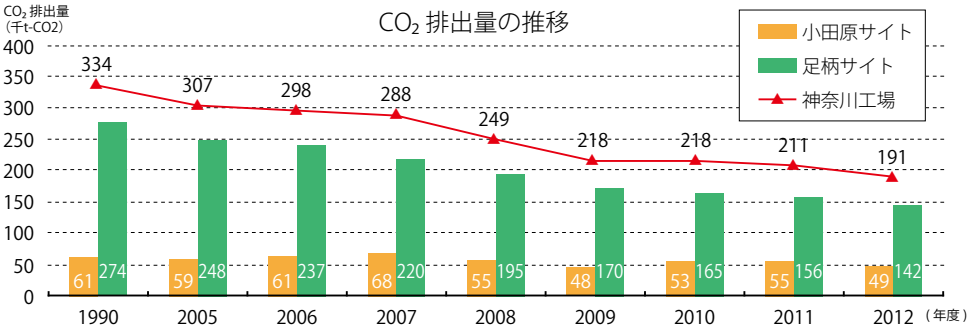
神奈川工場では地球温暖化対策委員会を組織し、工場をあげて省エネ活動を積極的に行いCO_2排出量削減と省エネに取り組みました。

エネルギー供給部門では、燃料を重油からCO_2排出が少ない都市ガスへの転換・コジェネレーションの導入・廃熱回収設備の導入・高効率ボイラーの導入などを進めてきました。

エネルギー使用部門では、新たな省エネ技術を導入した生産設備の導入・高効率冷凍機やインバータなど省エネ機器の導入・製品設計や製造条件を見直すことによる高効率生産などを進めてきました。

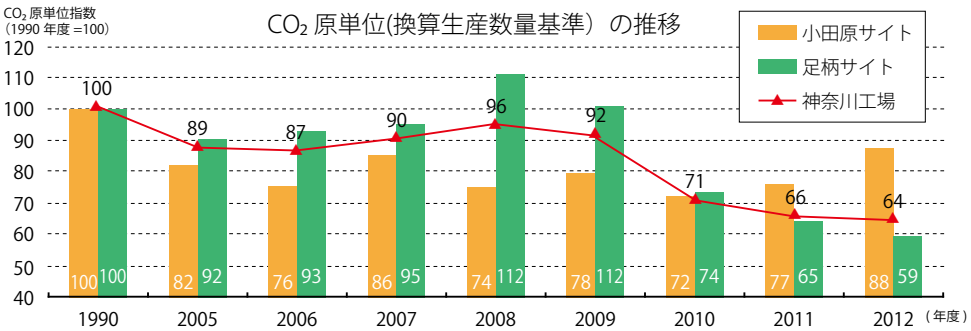
その結果CO_2の排出量は1990年比で約43%に削減でき、日本の目標である6%を大幅に上回ることができました。

CO_2 排出量の削減



CO_2 排出原単位の改善

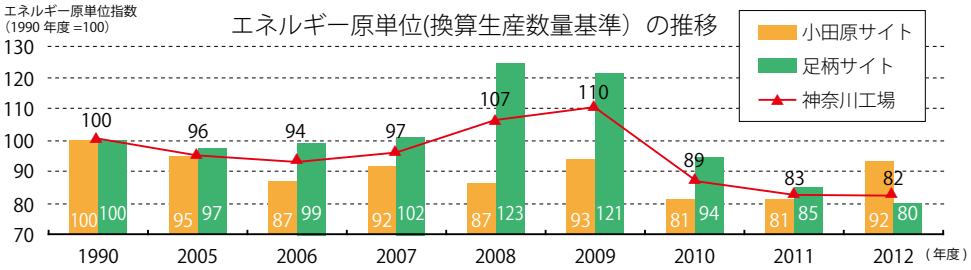
神奈川工場は1990年比約36%低減し全社目標達成に貢献しました。



※CO_2排出原単位…製品㎡当たりのCO_2排出量

エネルギー原単位の改善

神奈川工場は1990年比約18%の低減を果たしました。



※エネルギー原単位…製品㎡当たりのエネルギー使用量

地域とのコミュニケーション

従業員の積極的なボランティア活動参加などによる地域との共生、社会への貢献を大切にしています。

清掃活動への参加

「クリーンさかわ」への参加　（5月）

小田原市自治会連合主催による美化運動に市民や様々なボランティア団体の方々と一緒に参加し酒匂川流域の清掃作業を行っています。

「山王川・久野川」の清掃　（6月）

小田原市および山王川・久野川流域自治会主催による河川の清掃作業を自治会の方々と一緒に行っています。

「春木径・幸せ径」の草刈　（6月・9月）

春木径奉仕会主催による両岸土手の草刈を近隣自治会の方々・様々なボランティア団体のみなさんと一緒に行っています。

コアジサシの郷づくり　（3月）

小田原市が主催する市鳥「コアジサシ」の営巣地を作る活動に参加しています。

従業員による地域とのかかわり

「環境フェア」への参加　（6月）

南足柄市役所で開催される環境フェアに参加し、工場の環境活動について見学に訪れる小学生にもわかりやすく説明しています。（写真は遮熱フィルムの断熱体験）

中沼自治会環境説明会　（11月）

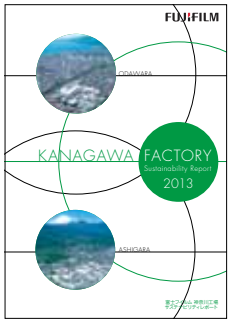
神奈川工場周辺の自治会の皆様に事業場の環境への取り組みを説明し意見交換を行っています。

「小田原市出初式」参加　（1月）

新春恒例小田原市消防出初式に参加しています。

「写真教室」の実施　（随時）

小学校などへ出向き写真の歴史や色の3原色の説明・現像液などを使ったプリント作業を実施し、子ども達に写真の楽しさを伝えています。



［表紙について］

小田原サイトの先に広がる相模湾。
箱根山の裾に位置する足柄サイト。
私達を取り巻く環境を改めて意識してデザインしました。

■対象組織
富士フイルム神奈川工場　および
当工場敷地内のすべての関連組織、グループ会社が対象

■神奈川工場
イメージング材料生産部
ファインケミカル生産部
保全技術部
事務部

■主な関連組織
フラットパネルディスプレイ材料生産部
フラットパネルディスプレイ材料研究所
有機合成化学研究所
記録メディア事業部生産部
記録メディア研究所
生産技術センター

■主なグループ会社
富士フイルムフォトマニュファクチャリング（株）
富士フイルムメディアマニュファクチャリング（株）
富士フイルムファインケミカルズ（株）平塚工場小田原分室
富士フイルムビジネスエキスパート (株)

FUJIFILM
富士フイルム株式会社

神奈川工場
小田原サイト
〒 250-0001　神奈川県小田原市扇町 2-12-1

足柄サイト
〒 250-0193　神奈川県南足柄市中沼 210

■参考にしたガイドライン
環境省 「環境報告ガイドライン
～持続可能な社会を目指して（2007年度版）」
ＧＲＩ 「サステナビリティ･リポーティング･ガイドライン2006」

環境省 「環境会計ガイドライン（2005年度版）」

■環境データ対象期間
2012年度（2012年4月～2013年3月）

本レポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願い致します。
富士フイルム　神奈川工場　事務部　環境安全グループ
ＴＥＬ　：　0465（73）6090
ＦＡＸ　：　0465（73）6909
E-mail　：　kami_kankyouiinkai@fujifilm.co.jp

発行　2013年9月　　次回発行予定　2014年9月